

# 水稻の生育状況（8月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2023年8月28日

## 1 生育状況

本年の出穂期は、平年値（2013～2022年までの過去10年平均）と比べて、2～3日早くなりました。（表1）

表1 農業技術センター（平塚市）における出穂期

作期	品種名	本年	平年	平年との差
6月上旬植	はるみ	8月8日	8月10日	2日早い
	キヌヒカリ	8月7日	8月9日	2日早い
	てんこもり	8月13日	8月16日*	3日早い
6月中旬植	はるみ	8月13日	8月16日**	3日早い
	キヌヒカリ	8月12日	8月15日	3日早い
	てんこもり	8月17日	8月20日*	3日早い

\*2018～2022年（5年平均）のデータに基づく。\*\*2012, 2015～2022年（9年平均）のデータに基づく。

## 2 栽培上の留意点

気象庁が8月24日に発表した1か月予報（8/26～9/25）では、気温は「高い」、降水量は「平年並か多い」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。

今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

### (1) 水管理

本年は出穂期以降も高温が続いているため、粒の充実不足や白未熟粒、胴割粒の発生が多くなる可能性があります。落水までは「かけ流しかん水（特に夜間のかけ流し）」を行い、かけ流しが困難な地域では「間断かん水」を行って、常時湛水しないようにしましょう。間断かん水は、地面を固くして倒伏防止の効果も期待できます。

落水時期は、出穂期から30日以後とします。早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するので可能な限り遅くしてください。

### (2) 成熟期（収穫時期）

成熟期は、出穂期が早かったこと、出穂期以降も高温傾向であること、今後も高温が見込まれることから、平年より早くなると予想されます。出穂期以降の日平均気温の積算温度から予想される成熟期は、表2のとおりです。本年はいつもよりも収穫作業を早めることが必要です。

ただし、収穫時期は、今後の気温の推移、黄化籾割合、籾水分、倒伏程度等から総合的に判断してください。収穫適期の黄化籾割合の目安は約85%です。

刈り遅れは、穂発芽や胴割粒等の発生を助長し、著しい品質低下につながりますので、必ず適期に収穫します。‘はるみ’や‘てんこもり’は‘キヌヒカリ’よりも穂発芽しにくいですが、刈り遅れないようにしてください。

表2 農業技術センター（平塚市）における成熟期（過去10年平均）と本年の登熟積算温度到達予測日

作期	品種名	平年 (過去10年平均)			登熟積算温度到達予測日**** (本年の成熟期予想)		
		登熟日数	登熟積算温度	成熟期	1000度	1050度	1100度
6月上旬植	はるみ	39日	1000度*	9月18日	9月15日	9月17日	9月19日
	キヌヒカリ	39日	1020度	9月17日	9月14日	9月16日	9月18日
	てんこもり**	40日	1010度	9月24日	9月21日	9月23日	9月26日
6月中旬植	はるみ	40日***	1020度****	9月25日***	9月21日	9月23日	9月26日
	キヌヒカリ	41日	1020度	9月24日	9月20日	9月22日	9月24日
	てんこもり**	43日	1070度	10月2日	9月26日	9月29日	10月1日

\*2014～2022年（9年平均）のデータに基づく。 \*\*2018～2022年（5年平均）のデータに基づく。  
 \*\*\*2012, 2015～2022年（9年平均）のデータに基づく。 \*\*\*\*2015～2022年（8年平均）のデータに基づく。  
 \*\*\*\*\*アメダス海老名の平均気温（8月25日までは本年値、8月26日以降は平年値）で計算。

### (3) 病害虫防除

#### ア 斑点米カメムシ類

県内各地で斑点米カメムシ類（写真1）が見られており、斑点米（写真2）の発生が懸念されます。畦畔等の雑草で増殖していますので、畦畔の除草は収穫の2週間前以降に行ってください。

#### イ 籾の褐変（写真3）

出穂期前後の強い降雨、強風及び高温の条件下では、籾枯細菌病や内籾褐変病等による褐変症状が発生しやすくなり、本年も一部のほ場では目立っています。褐変籾は着色粒等になるので玄米の品質を下げないため、丁寧に調製し、未熟粒や被害粒を取り除くようにしてください。

#### ウ 紋枯病（写真4）

紋枯病は、高温・多湿条件で多発します。多発水田では倒伏に注意しましょう。また、翌年は紋枯病に適用のある箱施薬剤を使うようにしましょう。



ホソハリ  
カメムシ

クモヘリ  
カメムシ

アカヒゲホソ  
ミドリカスミカメ

アカスジ  
カスミカメ

斑点米カメムシ類（写真1）

斑点米（写真2）

紋枯病（写真3）

籾の褐変症状（写真4）

#### エ トビイロウンカ (写真5)

8月21日現在、県内の予察灯で誘殺は確認されていませんが、増殖が早いため、今後水田で急激に増える可能性があります。坪枯れの被害が生じることがありますので、今後の発生状況に注意してください。

#### オ スクミリングガイ (ジャンボタニシ) (写真6・7)

発生地域では周辺への拡大防止や密度を減らすため、水田や水路の貝を捕殺するとともにピンク色の卵(卵塊)は潰しましょう。また、水田内への侵入を防止するため、水口と水尻に6~9mm目合いの網を設置しましょう。

#### カ ナガエツルノゲイトウ (写真8)

これまで確認されていなかった地域で水田への侵入が認められ、発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた場合は、最寄りのJAまたは農業技術センターに連絡してください。



トビイロウンカによる  
坪枯れ症状 (写真5)



スクミリングガイ (写真6) と卵塊 (写真7)



ナガエツルノゲイトウ (写真8)

※ この他の病虫害防除対策は、病虫害防除部が発信している「令和5年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2023\\_3\\_31.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2023_3_31.html)

※ また、薬剤防除を行うときは、病虫害防除部の「防除情報(病虫害情報 号外 第4号)」を参考に、適切な農薬使用をお願いします。

[https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97362/20230703\\_gogai4.pdf](https://www.pref.kanagawa.jp/documents/97362/20230703_gogai4.pdf)

#### (4) 収穫作業における異品種・異物混入防止対策

- ・ 収穫前に、水田内のゴミや空き缶等の異物の除去を徹底してください。また、雑草種子混入を防ぐため、クサネム等の雑草を除去しましょう(写真9)。
- ・ 収穫前に、ほ場の事前確認を行い、品種と収穫の順番を確認しましょう。
- ・ 倒伏や刈り遅れた場合、収穫時に株が抜けて小石等の異物が混入しやすくなるので、高い位置で刈り取ってください。
- ・ コンバインや穀類搬送機等は、品種が替わるごとに、エアコンプレッサー等を使って清掃を徹底してください。



クサネム (写真9)

## (5) 農作業安全

### ア 収穫乾燥の機械作業

- ・ コンバイン、乾燥機等の機械は、事前に必ず点検及び整備を行い、計画的な作業に努めます。合わせて、コンバインの刈刃は切れるように整備しましょう。
- ・ コンバイントレーラー搬送は、低速走行のために夕暮れ時等に自動車との接触の危険性が高まります。法令に定められた灯火類の設置を確認し、事故防止を図ってください。
- ・ 収穫作業を始める前に、コンバインの転倒・転落を防ぐため、事前に路肩や畦畔の状態を確認してください。
- ・ コンバインの積み下ろし時や勾配が大きい水田へ出入りする場合は、充分強度の高いブリッジ等を用いて低速で行いましょう。
- ・ コンバイン作業中に、ワラの詰まりやその他異常が発生した場合は、**必ずエンジンを止めて対処**してください。

### イ 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。

のどが渇いていなくてもこまめに水分補給するとともに、帽子の着用や汗を発散しやすい服装に心がけましょう。



## (6) 台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。

**台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。** 気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

### ア 事前防止対策

- ・ 用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・ 可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちょうや倒伏防止に備えます。

### イ 事後対策

- ・ 損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・ 風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。
- ・ 台風通過後に病害虫が発生することがあるので、病害虫防除部の「令和5年度病害虫発生予察情報」に注意します。

問合せ先

農業技術センター普及指導部作物加工課

TEL : 0463-58-0333 内線 381~384